



ENDPOINT PROTECTION ADVANCED

イーセット エンドポイント プロテクション アドバンスド



ENDPOINT PROTECTION STANDARD

イーセット エンドポイント プロテクション スタンダード

ESET Endpoint Protection シリーズ

ESET NOD32アンチウイルス for Linux Desktop V4.0

機能紹介資料



ENDPOINT
PROTECTION
ADVANCED

イーセット エンドポイント プロテクション アドバンスド



ENDPOINT
PROTECTION
STANDARD

イーセット エンドポイント プロテクション スタンダード

第4版

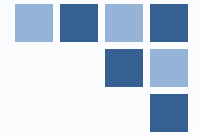
作成：2020年4月6日

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

1 目次

ENDPOINT SECURITY ESET ENDPOINT ANTIVIRUS



目次

1. 目次
2. はじめに
3. Linux クライアントOS向けプログラムの機能概要
 1. システム要件
 2. ウイルス・スパイウェア対策
 3. クライアント管理機能 / 情報取得機能

2 はじめに

SECURITY ESET ENDPOINT ANTIVIRUS




はじめに

本資料は、Linux クライアントOS向けプログラムの機能を紹介した資料です。

プログラム名	種別
ESET NOD32アンチウイルス for Linux Desktop V4.0 (略称表記：EAVL)	Linux クライアントOS向け ウイルス・スパイウェア対策プログラム

- 本資料で使用している画面イメージは使用するOSにより異なる場合があります。
また、今後画面イメージや文言が変更される可能性があります。
- 上記のプログラムはクライアント管理用プログラム（ESET Security Management Center V7.0/7.1 ※以降ESMC、ESET Remote Administrator V6.5 ※以降ERA）で管理が可能です。
ESMCやERAは、管理画面のインターフェースがWebインターフェースのため操作方法が刷新されています。
管理用プログラムの機能紹介は別資料でご用意しています。
- ESET Endpoint Protection シリーズではWindows、Mac、Android OS向けのプログラムもご使用いただけます。また、LinuxサーバーOS向けのプログラムもご使用いただけます。
各プログラムの機能紹介は別資料でご用意しています。



Linux クライアントOS向け プログラムの機能概要



1. 動作環境

本プログラムの動作環境は以下の通りです。

動作環境	
CPU	インテル プロセッサ (32bit または 64bit)
メモリー	512MB以上
ハードディスク	100MB以上
OS	Ubuntu 14.04 / 16.04 / 18.04 ※
必要ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none">• kernel 2.6.X またはそれ以上のバージョン• glibc 2.3 またはそれ以上のバージョン• GTK+ 2.6 またはそれ以上のバージョン• LSB 3.1互換が推奨

※ Ubuntu 18.04はEAVL V4.0.93.0以降のみ対応しています。



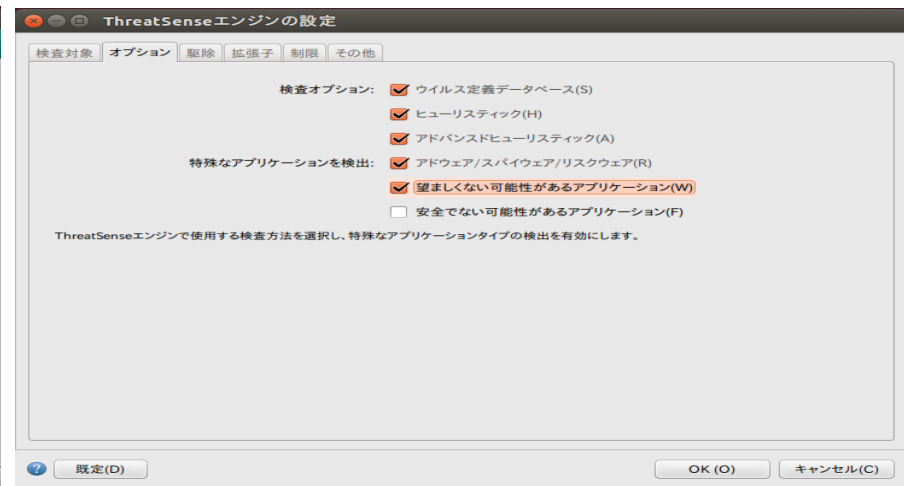
2. ウイルス・スパイウェア対策①

高性能な機能を駆使し、あらゆるマルウェアから常時Linuxを保護します。

Point ① 以下3つの方法でLinux クライアントを保護

- ・ 検出エンジン
- ・ ヒューリスティック
- ・ アドバンスドヒューリスティック

3つの方法による高性能な機能を駆使し、既知のマルウェアだけでなく新種・未知のマルウェアを検出することも出来ます。





2. ウイルス・スパイウェア対策②

高性能な機能を駆使し、あらゆるマルウェアから常時Linuxを保護します。

Point ② 3つの時間軸からLinux クライアントを保護

- ・ リアルタイム検査
- ・ オンデマンド検査
- ・ スケジュール検査

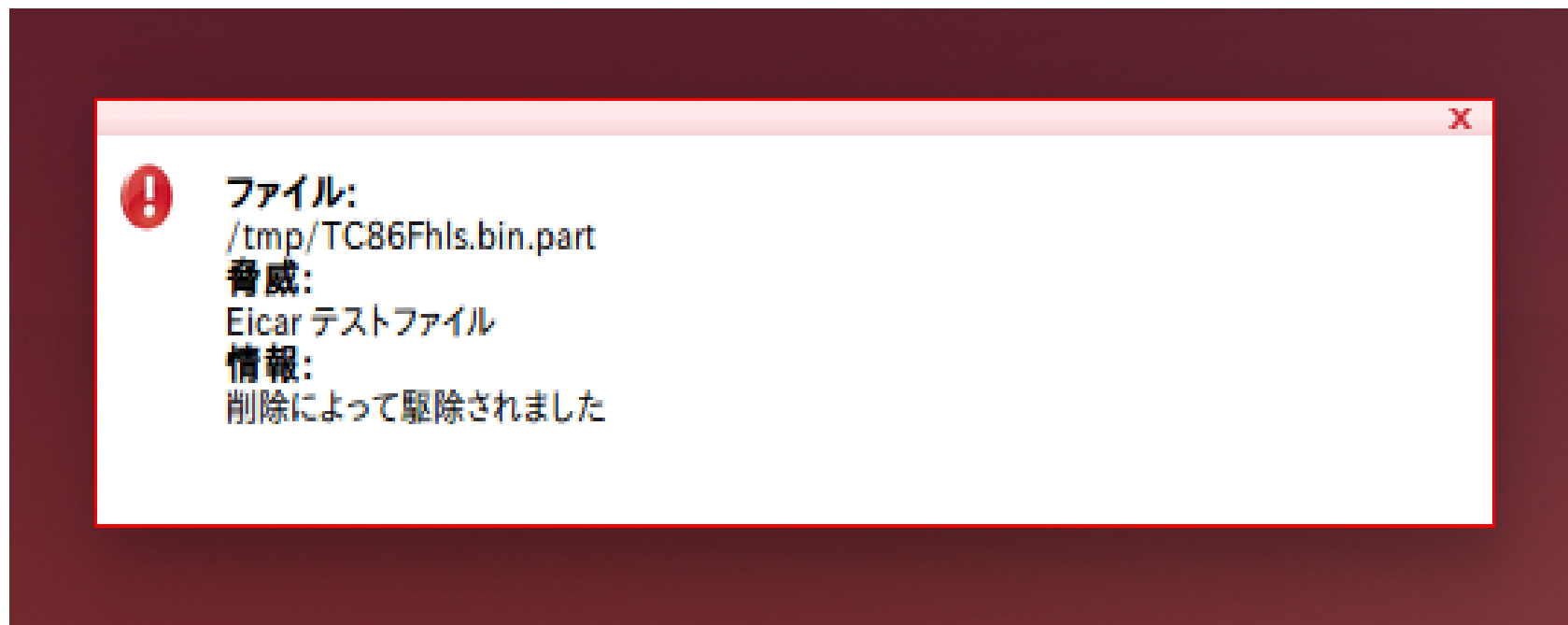
3つの時間軸から、リアルタイムに、望んだときに、指定した時間に、Linuxを検査し、常時Linuxを安全な状態に保ちます。





2. ウイルス・スパイウェア対策③

ウイルス・スパイウェアを検出時、以下のポップアップ画面が表示されます。

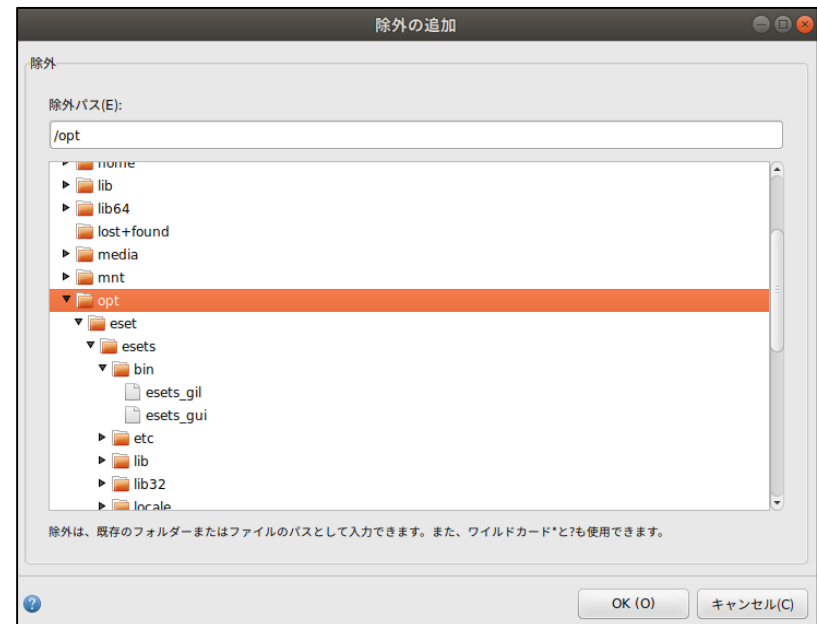
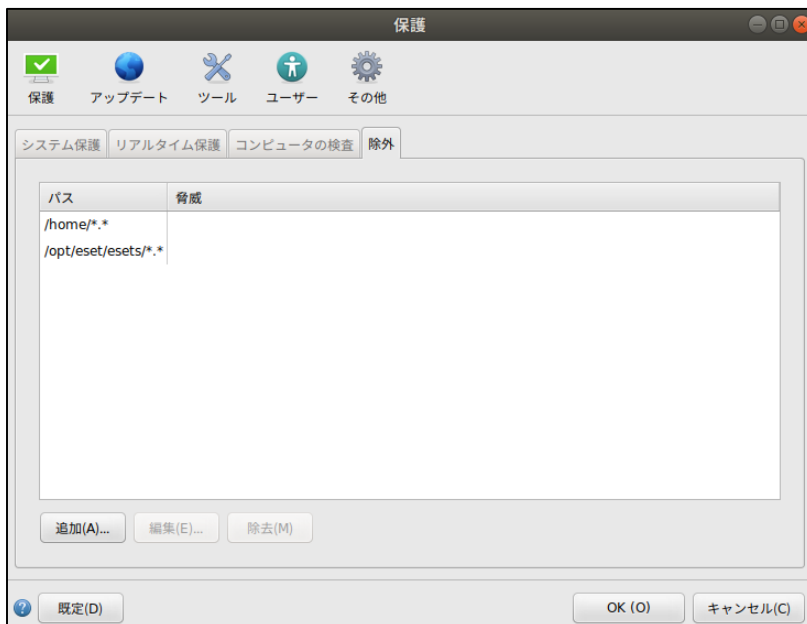




2. ウイルス・スパイウェア対策④

Point ③ 除外機能

除外の設定を行うことで、特定のフォルダやファイルをウイルス検査の対象から外すことが可能です。パスの入力で除外の設定を行えます。独自開発したアプリケーションやデータベースなどを除外の設定に加えることで、誤検知やデータベースなどを検査した際のCPU使用率の上昇を防ぐことが可能です。



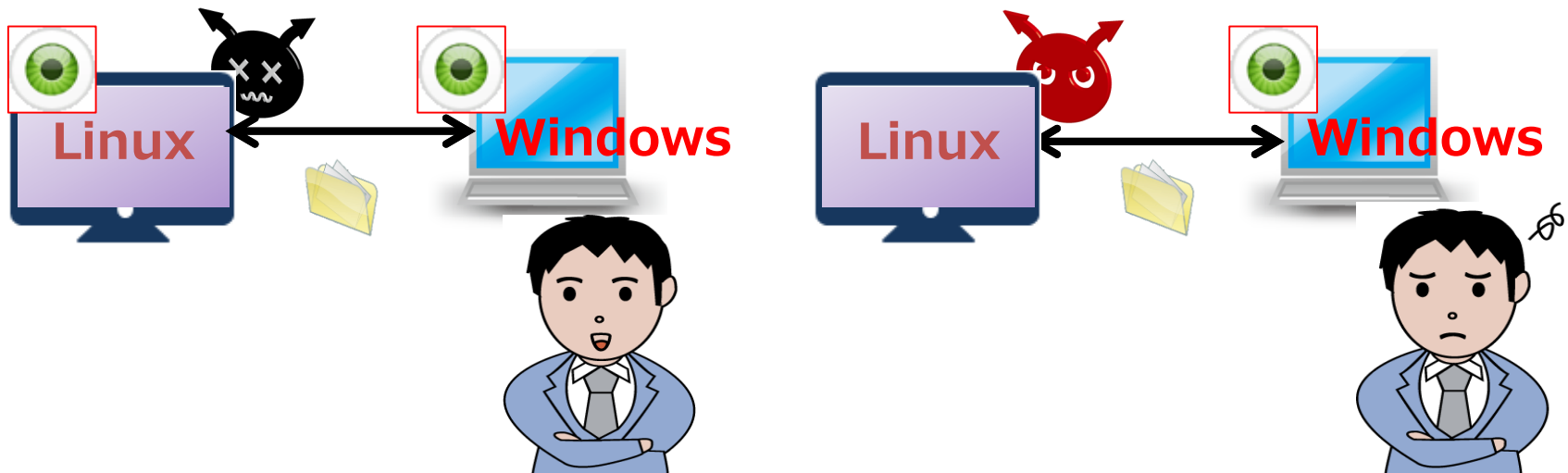


2. ウィルス・スパイウェア対策⑤

Point ④ クロスプラットフォームプロテクション

- Linux-based
- Windows-based
- Mac-based

従来の製品と同じく、ESET製品は異なるプラットフォームのマルウェアも検出します。Linuxを守ることは、ネットワーク上に共存するWindowsやMacを守ることに繋がります。





3. クライアントの管理機能/情報取得機能①

EAVLは、ESMCやERAと連携し、以下の管理を行うことができます。

Point ⑤ クライアント管理

管理用プログラム（ESMC、ERA）と連携できる内容

➤ 情報収集

- サーバーの情報収集（コンピューター名、OS、Macアドレス、IPアドレス、検出エンジンのバージョン等）
- リアルタイムスキャンのウイルスログ情報
- オンデマンドスキャンの検査ログ情報
- イベントログ情報収集

➤ コンフィグレーションの配布

- ESET Security Management Centerでコンフィグレーションをポリシーで配布
- ESET Remote Administratorでコンフィグレーションをタスクで配布

➤ タスクの配布

- オンデマンドスキャンの実行
- 検出エンジンのアップデート実行



3. クライアントの管理機能/情報取得機能②

システム管理者は、クライアント端末の保護状態をリモートで一元管理できます。

Point ⑥ Windows/Linuxを問わず、クライアントを一元管理

EAVLは、管理用プログラム（ESMC、ERA）を使ったリモート管理が可能です。既に管理用プログラムを運用中の方は、現在のネットワーク構成を変えずにLinux版プログラムを管理することが出来ます。また、ESMCやERAは、Windows / Linuxを問わず、すべてのESET製品を一元管理できます。ESMCやERAで、EAVLを管理する為には、EAVLにエージェント（※）のインストールが必要です。

ESMCのコンピューター一覧に表示されたLinuxのOS情報

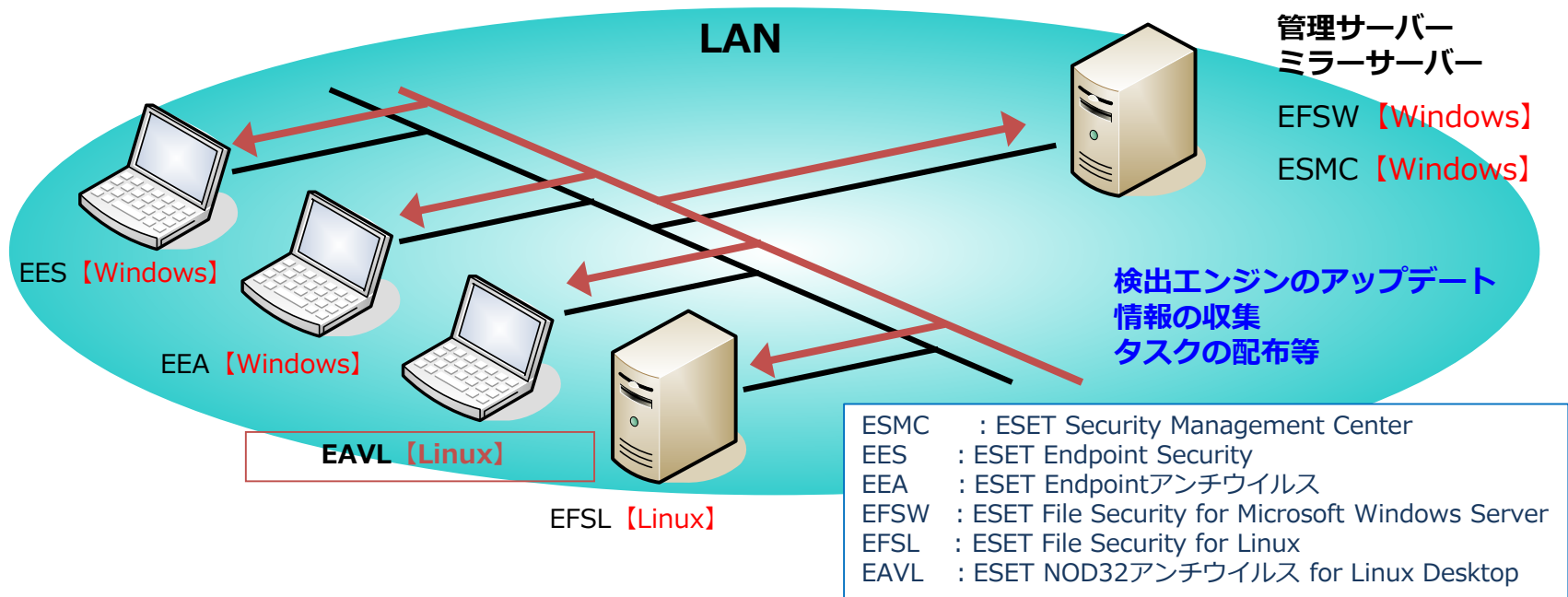
ミュ-	モジ-	前回の接続	アラ-	検出	セキュリティ製品	セキュリティ	クル	ポリ-	OS名	OSバージョン	OSブ-
	更新	2020 4月 1 12:58:37	0	0	ESET NOD32 Antivirus	4.0.95.0	LOS...	0	Ubuntu	18.04	64-bit

※ESMCで管理するためには、ESET Management Agent、
ERAで管理するためには、ESET Remote Administrator Agentが必要です。



3. クライアントの管理機能/情報取得機能③

WindowsとLinuxのクライアントが混在する環境での管理構成例は、以下になります。



※ESMCとERAには、それぞれWindows版とLinux版がございます。

Linux版は、Ubuntu上での動作はサポートされていないので、管理サーバーを構築する際にはご注意ください。